

2025年3月期第3四半期 決算説明会

2025年2月7日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
福田 智光

決算サマリー

2025年3月期第3四半期 連結業績概要

- 売上高は869億円、前四半期から微増。情報機器、通信機器向けが増加。
- 営業利益は前四半期比83%減の8億円。在庫引当金の増加などが営業利益を押し下げた。
- 売上高は11月時点の想定を上回ったが、営業利益は想定していた水準に届かなかった。

2025年3月期 連結業績予想

- 11月に発表した業績予想を上方修正。
- 売上高は3,385億円(前期比5%増)、営業利益は100億円(同10%増)を計画。
- 第4四半期に事業構造改善費用10億円の発生を見込み、親会社株主に帰属する当期純利益は50億円(同40%減)と予想。

2025年3月期第3四半期 連結業績概要

売上高は、第2四半期から微増の869億円でした。SSD、メモリモジュールなどの情報機器やスマートフォンに代表される通信機器向けの売上が増加しました。

営業利益は8億円で、前四半期から83%減少しました。在庫引当金の増加などが減益要因となりました。

第2四半期決算を発表した11月時点の見込みと比較すると、売上高は予想を上回りましたが、営業利益は想定を大きく下回る結果となりました。

2025年3月期 連結業績予想

第3四半期までの実績と今後の需要予測、為替レートの動向などに基づき、11月に発表した通期の業績予想を上方修正しました。

売上高は前期比5%増の3,385億円を、営業利益は同10%増の100億円を計画しています。

なお、第4四半期には構造改革の実施を予定しており、特別損失として事業構造改善費用10億円が発生する見込みです。その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は同40%減の50億円になると予想しております。

2025年3月期第3四半期
連結業績概要

第3四半期 連結業績概要(前四半期比)

百万円	2025年3月期 第2四半期		2025年3月期 第3四半期		増減	
	金額	対前	金額	対前	金額	対前
売上高	86,718	100.0%	86,868	100.0%	150	0.2%
営業利益	4,945	5.7%	825	1.0%	△4,119	△83.3%
経常利益	△1,617	△1.9%	6,925	8.0%	8,543	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△2,741	△3.2%	4,598	5.3%	7,340	—
対米ドル期中平均レート	154.14円		149.04円		5.10円円高	
為替変動による影響額	売上高 △21億円、営業利益 △16億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,687		3,775		87	2.4%
設備投資額	15,100		16,329		1,228	8.1%
減価償却費	11,377		11,899		522	4.6%

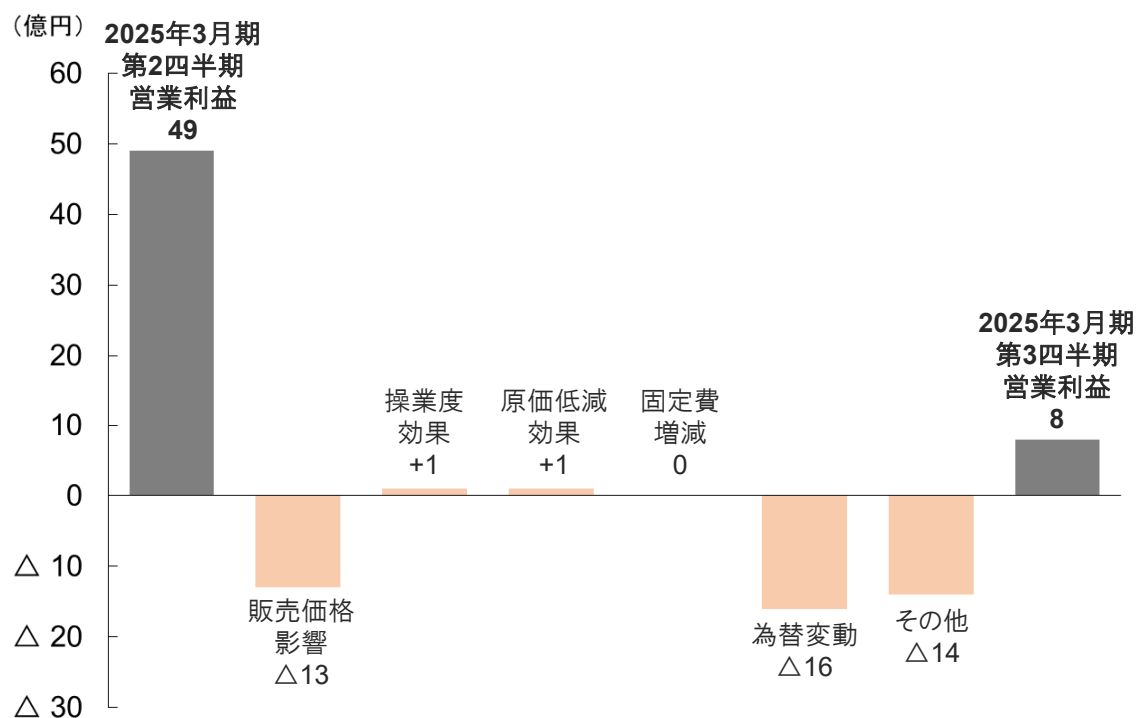
2025年3月期第3四半期の業績は、
売上高869億円、営業利益8億円となりました。

四半期末の為替レートが、第2四半期末の1米ドル142円台に対して
第3四半期末は158円台と大幅な円安に転じたため、
60億円の為替差益を計上し、経常利益は69億円となりました。
また、親会社株主に帰属する四半期純利益は46億円でした。

期中平均の為替レートは1米ドル149円台で、
前四半期に対して約5円円高でした。
これにより、売上高に対してマイナス21億円、
営業利益に対してマイナス16億円の影響がありました。
アジア通貨高により、営業利益への影響がやや大きく出ました。

研究開発費は38億円、設備投資額は163億円、減価償却費は119億円で、
いずれも前四半期から増加しました。

第3四半期 営業利益増減要因(前四半期比)



営業利益が前四半期に対して減益となった主な要因は、販売価格影響、その他、先ほど申し上げた為替変動の3点です。

同一製品を比較した値下りを示す販売価格影響は、マイナス13億円でした。
値下り率としては、前四半期よりもやや緩やかな状況です。

14億円のマイナス影響となったその他は、在庫の引当金などによるものです。通信用デバイスの売上低迷による棚卸資産の引当金の増加や、12月末の為替レートが円安だったことによる未実現利益の消去額および在庫引当金の増加が減益要因となりました。

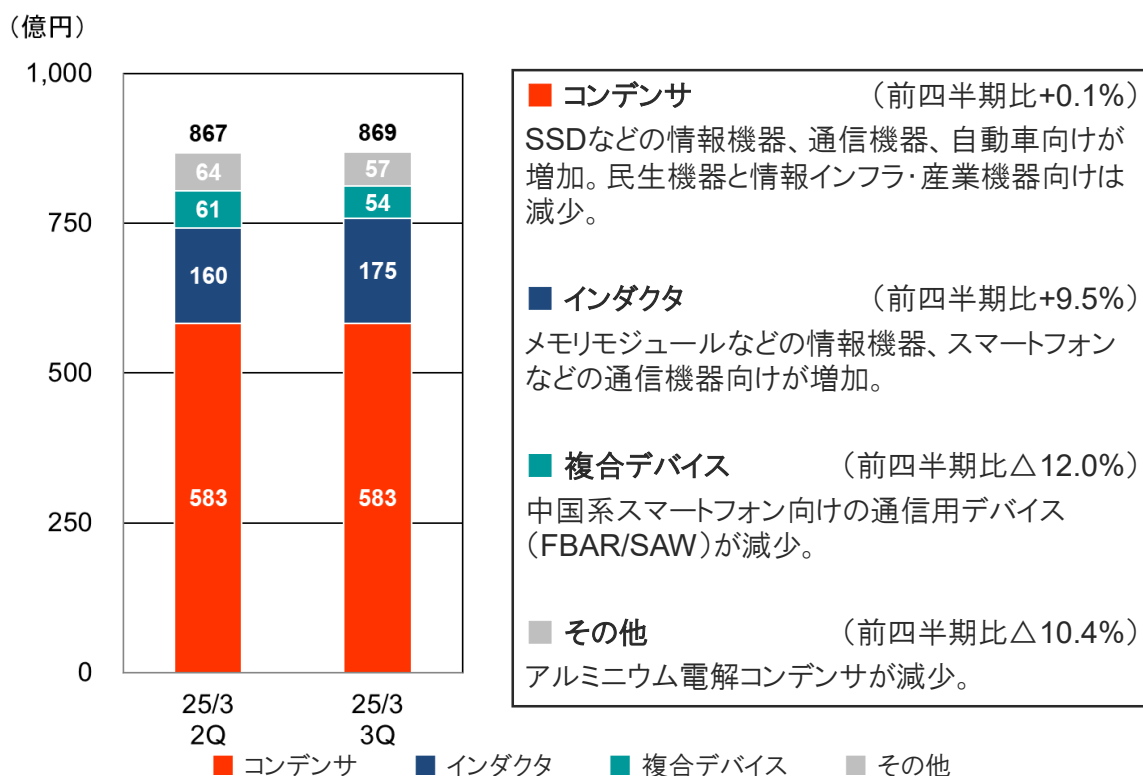
これら3点以外の要因による営業利益増減への影響は、軽微でした。
なお、12月末の全社の棚卸資産は、為替や利益に影響がない部分を除いた実態ベースで9月末とほぼ同水準でした。

その結果、第3四半期の営業利益は前四半期から41億円減少し、8億円となりました。

第3四半期 製品別売上高(前四半期比)

百万円	2025年3月期 第2四半期		2025年3月期 第3四半期		増減	
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	増減額	増減率
コンデンサ	58,278	67.2%	58,317	67.1%	39	0.1%
インダクタ	15,963	18.4%	17,471	20.1%	1,508	9.5%
複合デバイス	6,097	7.0%	5,363	6.2%	△733	△12.0%
その他	6,379	7.4%	5,714	6.6%	△664	△10.4%
合計	86,718	100.0%	86,868	100.0%	150	0.2%

第3四半期 製品別売上高(前四半期比)



©TAIYO YUDEN Co., Ltd.

TAIYO YUDEN

7

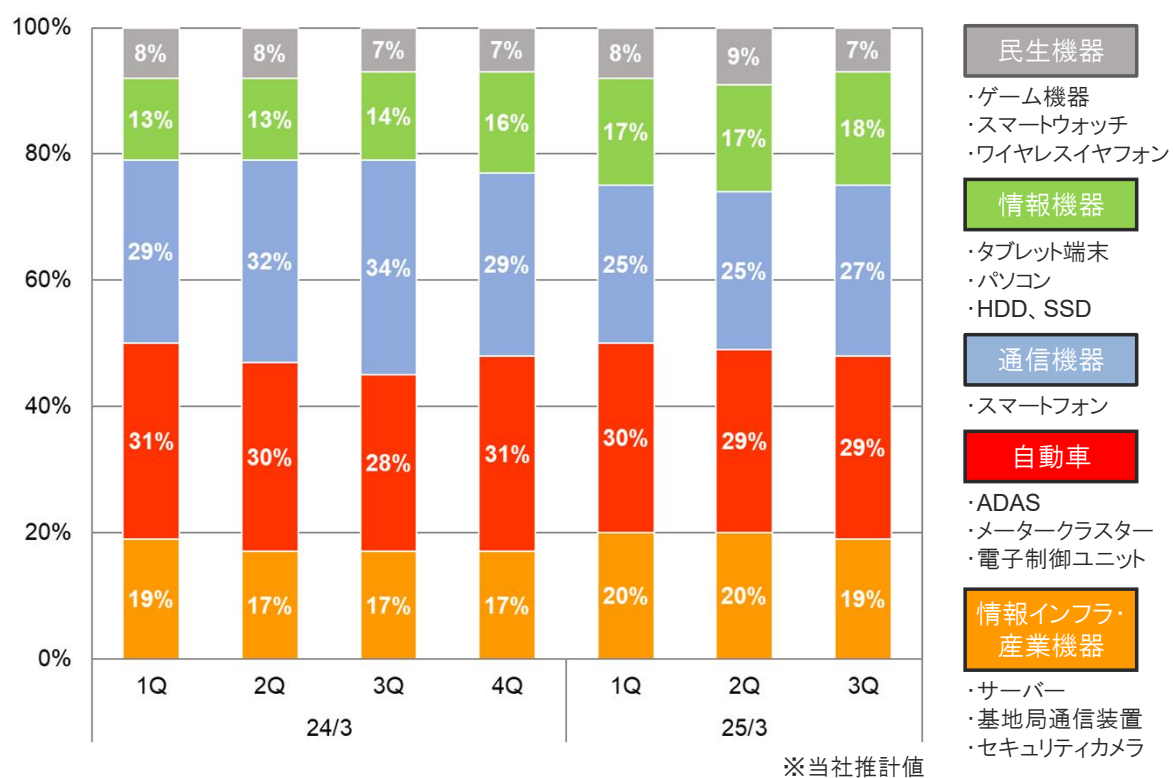
コンデンサの売上高は、前四半期とほぼ同水準の583億円でした。用途分野別では、SSDなどの情報機器や通信機器、自動車向けが増加した一方、民生機器や情報インフラ・産業機器向けが減少しました。なお、第3四半期のコンデンサの稼働率は75%前後でした。

インダクタの売上高は、同10%増の175億円でした。メモリモジュールをはじめとする情報機器、スマートフォンなどの通信機器向けの売上が拡大しました。

一方、複合デバイスの売上高は同12%減少し、54億円でした。中国系スマートフォン向けの通信用デバイス(FBAR/SAW)が減少しました。なお、複合デバイスの売上に占める通信用デバイスの割合は65-70%でした。

その他の売上高は、子会社であるエルナーのアルミニウム電解コンデンサが減少し、同10%減の57億円となりました。

用途分野別売上構成



©TAIYO YUDEN Co., Ltd.

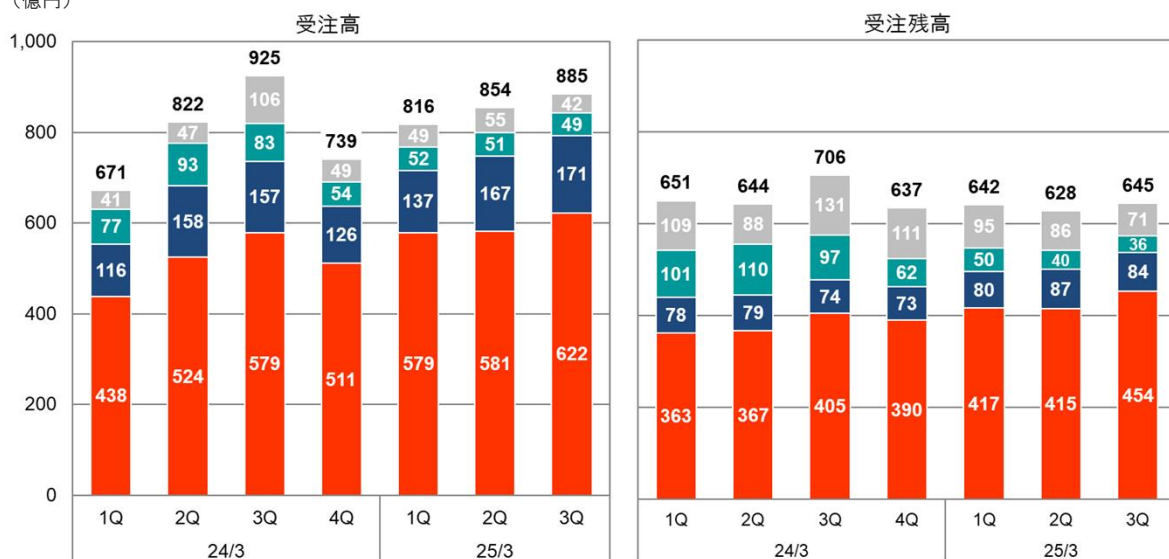
TAIYO YUDEN

8

用途分野別の売上構成は、前四半期から大きな変化はありません。
 情報インフラ・産業機器向けが19%、自動車向けが29%で、
 合わせて売上の約半分を占めています。
 通信機器向けは27%、情報機器向けは18%、民生機器向けは7%でした。

受注高・受注残高

(億円)



BBレシオ

	24/3				25/3		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
全社	0.92	0.99	1.07	0.91	1.01	0.98	1.02
コンデンサ	0.93	1.01	1.07	0.97	1.05	1.00	1.07

■ コンデンサ ■ インダクタ
■ 複合デバイス ■ その他

※BBレシオ=受注高/売上高

第3四半期の全社の受注高は885億円で、前四半期から4%増加しました。
 また、コンデンサは同7%増の622億円でした。
 売上高に対する割合を示すBBレシオは、
 全社が1.02、コンデンサが1.07と、いずれも受注高が上回りました。

受注残高は、全社、コンデンサともに前四半期末より増加しました。

2025年3月期
連結業績予想

2025年3月期 連結業績予想(前回予想比)

百万円	2025年3月期 前回予想		2025年3月期 今回予想		増減	
	金額	対前比	金額	対前比	金額	対前比
売上高	330,000	100.0%	338,500	100.0%	8,500	2.6%
営業利益	7,600	2.3%	10,000	3.0%	2,400	31.6%
経常利益	6,000	1.8%	14,000	4.1%	8,000	133.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	0	0.0%	5,000	1.5%	5,000	—
対米ドル期中平均レート	149.32円		152.33円		3.01円円安	
研究開発費	15,000		15,000		0	0.0%
設備投資額	70,000		66,000		△4,000	△5.7%
減価償却費	45,000		46,000		1,000	2.2%

第3四半期までの実績と今後の需要予測に基づき、
11月に発表した通期の業績予想を上方修正いたしました。
為替前提は、1米ドル149円台から152円台に見直しました。

第4四半期の各市場の需要動向ですが、
通信機器向けは、スマートフォンの季節性により
前四半期に対して需要が減少する見込みです。
一方で、自動車や情報インフラ・産業機器においては
受注が増加しており、第4四半期に向けて売上が増加すると
予想しています。

今回変更した通期の業績予想は、売上高が3,385億円、
営業利益は100億円、経常利益は140億円です。

なお、冒頭で申し上げたとおり、第4四半期には通信用デバイスにおいて
構造改革の実施を予定しており、これに伴う特別損失として
事業構造改善費用10億円を見込んでいます。
それにより、親会社株主に帰属する当期純利益は50億円と予想いたします。

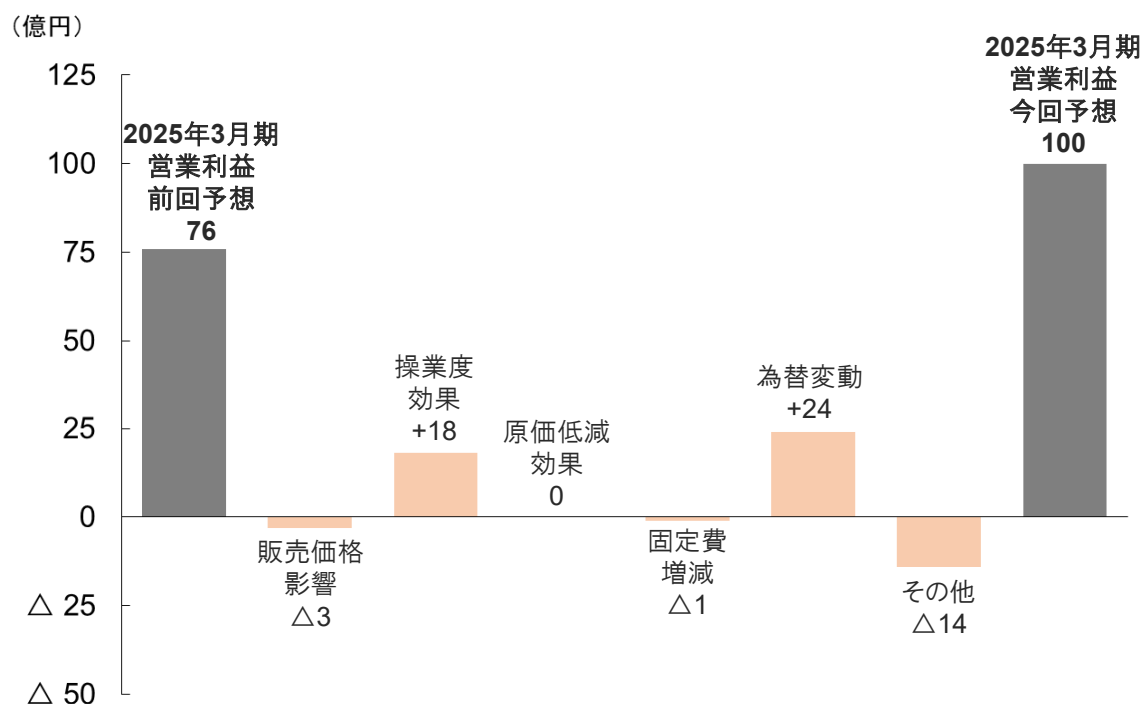
設備投資につきましては需要動向を踏まえてやや抑制し、
660億円に変更しました。
また、為替の変動により、減価償却費の見通しは10億円引き上げました。

2025年3月期 連結業績予想(前期比)

百万円	2024年3月期		2025年3月期 予想		増減	
	金額	対前期比	金額	対前期比	金額	対前期比
売上高	322,647	100.0%	338,500	100.0%	15,853	4.9%
営業利益	9,079	2.8%	10,000	3.0%	921	10.1%
経常利益	13,757	4.3%	14,000	4.1%	243	1.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,317	2.6%	5,000	1.5%	△3,317	△39.9%
対米ドル期中平均レート	143.32円		152.33円		9.01円円安	
研究開発費	13,696		15,000		1,304	9.5%
設備投資額	92,201		66,000		△26,201	△28.4%
減価償却費	39,391		46,000		6,609	16.8%

前期比では、売上高は5%の増収、営業利益は10%の増益、
経常利益は2%の増益となりますが、
第2四半期に計上した独占禁止法関連損失や
第4四半期に計画している事業構造改善費用などの特別損失により、
親会社株主に帰属する当期純利益は40%減となる見込みです。

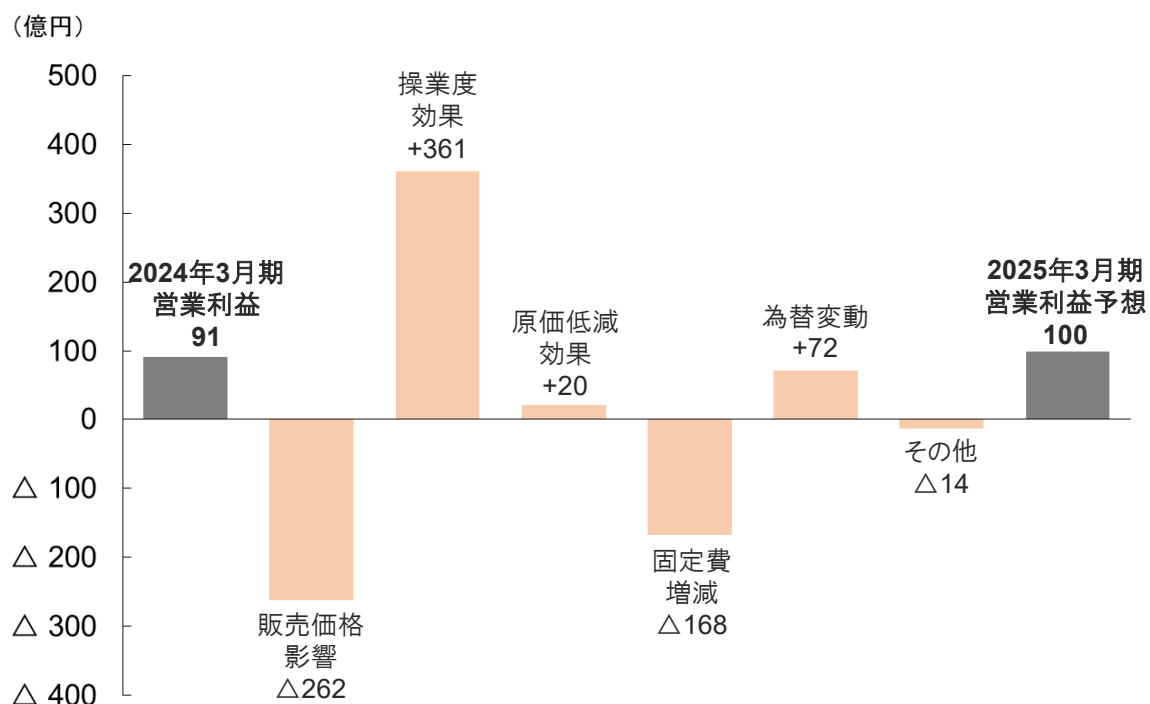
2025年3月期 営業利益予想増減要因(前回予想比)



営業利益の増益要因は、操業度効果18億円と為替変動24億円の2点です。一方で、在庫引当金などの増加により、その他として14億円の減益要因となる見込みです。

なお、全社合計の棚卸資産については11月時点の予想から変更なく、為替による増減や利益に影響がない部分を除いた実態ベースで前期末から約100億円増加する予定です。また、今期の12月末から3月末は、同程度の水準を計画しています。

2025年3月期 営業利益予想増減要因(前期比)



前期比では、販売価格影響262億円、固定費増加168億円、その他14億円が減益要因となります。
増益要因としては、操業度効果361億円や原価低減効果20億円、為替変動72億円を見込んでおり、営業利益は9億円の増益を予想しています。

なお、同一アイテム比の値下がりペースは、前期に対してやや緩やかになる見通しです。

2025年3月期 製品別売上高予想(前回予想比)

百万円	2025年3月期 前回予想		2025年3月期 今回予想		増減	
	売上高	対前年比	売上高	対前年比	増減額	対前回予想比
コンデンサ	225,500	68.3%	231,500	68.4%	6,000	2.7%
インダクタ	56,500	17.1%	59,500	17.6%	3,000	5.3%
複合デバイス	23,000	7.0%	23,000	6.8%	0	0.0%
その他	25,000	7.6%	24,500	7.2%	△500	△2.0%
合計	330,000	100.0%	338,500	100.0%	8,500	2.6%

製品別の売上高予想は、11月時点の予想に対して
コンデンサは3%、インダクタは5%引き上げました。
その他は2%引き下げ、複合デバイスは変更ありません。

2025年3月期 製品別売上高予想(前期比)

百万円	2024年3月期		2025年3月期 予想		増減	
	売上高	前期比	売上高	前期比	増減額	増減率
コンデンサ	205,829	63.8%	231,500	68.4%	25,671	12.5%
インダクタ	55,566	17.2%	59,500	17.6%	3,934	7.1%
複合デバイス	34,934	10.8%	23,000	6.8%	△11,934	△34.2%
その他	26,317	8.2%	24,500	7.2%	△1,817	△6.9%
合計	322,647	100.0%	338,500	100.0%	15,853	4.9%

前期比では、コンデンサは13%、インダクタは7%の増収となる見込みです。

一方、複合デバイスは、前期好調だった中国系スマートフォンの需要減速や回路モジュールの選択と集中に伴う事業縮小の影響などにより、34%の減収を想定しています。

その他は、7%の減収となる予想です。

第4四半期 製品別売上高予想

百万円	2025年3月期 第3四半期	2025年3月期 第4四半期予想 (前四半期比増減)
コンデンサ	58,317	+2%
インダクタ	17,471	△25%
複合デバイス	5,363	△4%
その他	5,714	+3%
合計	86,868	△4%

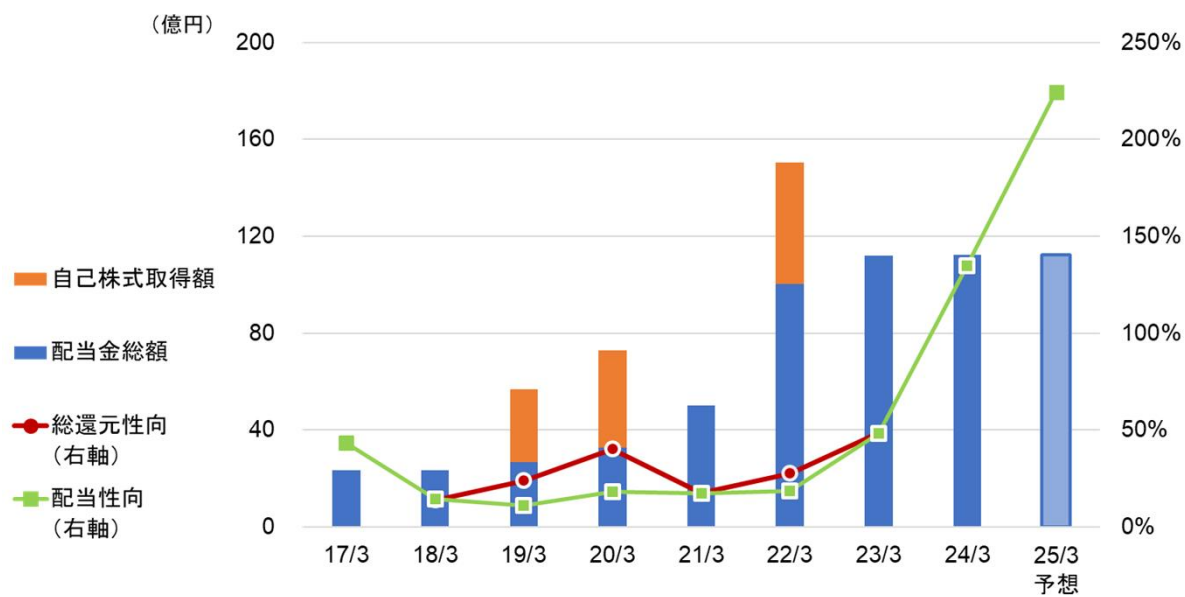
対米ドル期中平均レート	149.04円	(前提) 153.00円
-------------	---------	--------------

第4四半期の製品別売上高予想はこの表の通りです。

コンデンサは、前四半期比で2%の増収を見込んでいます。
用途分野別では、季節性による通信機器向けの減少はあるものの、
それ以外の民生機器、情報機器、自動車、情報インフラ・産業機器向けが
増加すると想定しています。
一方、スマートフォン需要の季節変動の影響をより大きく受けるインダクタは、
同25%の減収となる見込みです。
複合デバイスは4%減収、その他は3%増収で、
全社合計では4%の減収となる想定です。

引き続き、各機器の需要動向や金融資本市場の変動を注視して
変化に対応していくとともに、中期的な需要拡大を見据えた準備を
進めてまいります。

株主還元



1株当たり年間配当金(円)	20	20	21	26	40	80	90	90	90
1株当たり当期純利益(円)	46.08	138.80	189.93	143.04	227.99	433.46	186.32	66.75	40.09

安定的な配当性向30%の実現を目指す

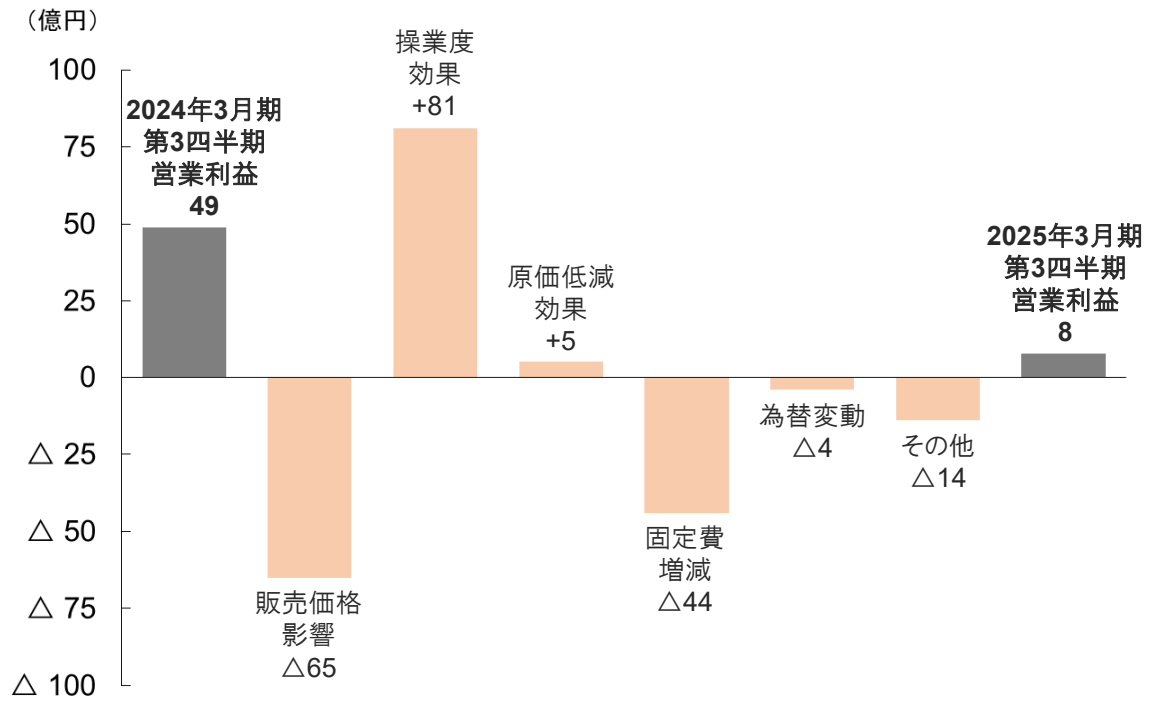
配当は期初計画から変更なく、年間90円を予定しています。
 配当の安定性を考慮し、前期と同水準の90円を維持しております。

補足資料

第3四半期 連結業績概要(前年同期比)

百万円	2024年3月期 第3四半期		2025年3月期 第3四半期		増減	
売上高	86,386	100.0%	86,868	100.0%	482	0.6%
営業利益	4,900	5.7%	825	1.0%	△4,074	△83.1%
経常利益	1,169	1.4%	6,925	8.0%	5,756	492.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	276	0.3%	4,598	5.3%	4,322	—
対米ドル期中平均レート	149.10円		149.04円		0.06円円高	
為替変動による影響額	売上高 +2億円、営業利益 △4億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,446		3,775		328	9.5%
設備投資額	32,732		16,329		△16,403	△50.1%
減価償却費	10,221		11,899		1,677	16.4%

第3四半期 営業利益増減要因(前年同期比)



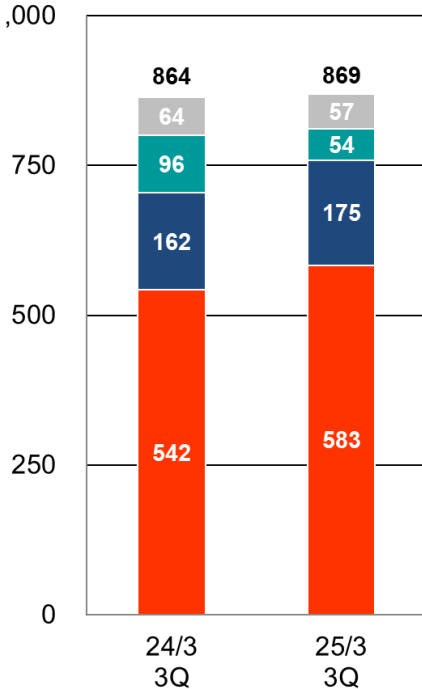
第3四半期 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2024年3月期 第3四半期		2025年3月期 第3四半期		増減	
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	増減額	増減率
コンデンサ	54,190	62.7%	58,317	67.1%	4,127	7.6%
インダクタ	16,196	18.7%	17,471	20.1%	1,275	7.9%
複合デバイス	9,641	11.2%	5,363	6.2%	△4,277	△44.4%
その他	6,358	7.4%	5,714	6.6%	△643	△10.1%
合計	86,386	100.0%	86,868	100.0%	482	0.6%

第3四半期 製品別売上高(前年同期比)

(億円)

1,000



■ **コンデンサ** (前年同期比+7.6%)

主にSSDなどの情報機器、自動車、情報インフラ・産業機器向けが増加。

■ **インダクタ** (前年同期比+7.9%)

ゲーム機器などの民生機器やメモリモジュールなどの情報機器向けが増加。

■ **複合デバイス** (前年同期比△44.4%)

通信用デバイス(FBAR/SAW)、回路モジュールが減少。

■ **その他** (前年同期比△10.1%)

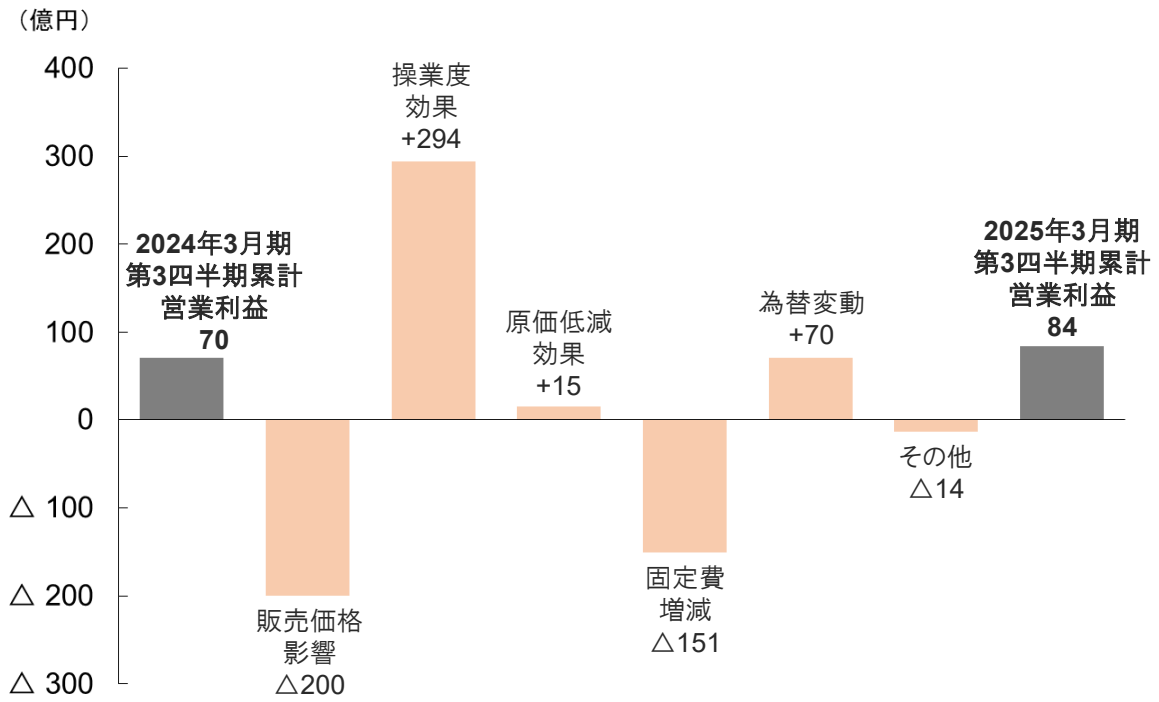
アルミニウム電解コンデンサが減少。

■ コンデンサ ■ インダクタ ■ 複合デバイス ■ その他

第3四半期累計 連結業績概要(前年同期比)

百万円	2024年3月期 第3四半期累計		2025年3月期 第3四半期累計		増減	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	241,813	100.0%	254,724	100.0%	12,911	5.3%
営業利益	7,043	2.9%	8,402	3.3%	1,358	19.3%
経常利益	7,456	3.1%	13,685	5.4%	6,228	83.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,676	1.5%	8,166	3.2%	4,489	122.1%
対米ドル期中平均レート	142.17円		152.11円		9.94円円安	
為替変動による影響額	売上高 +125億円、営業利益 +70億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	9,969		11,103		1,133	11.4%
設備投資額	68,192		46,410		△21,782	△31.9%
減価償却費	28,492		33,825		5,333	18.7%

第3四半期累計 営業利益増減要因(前年同期比)

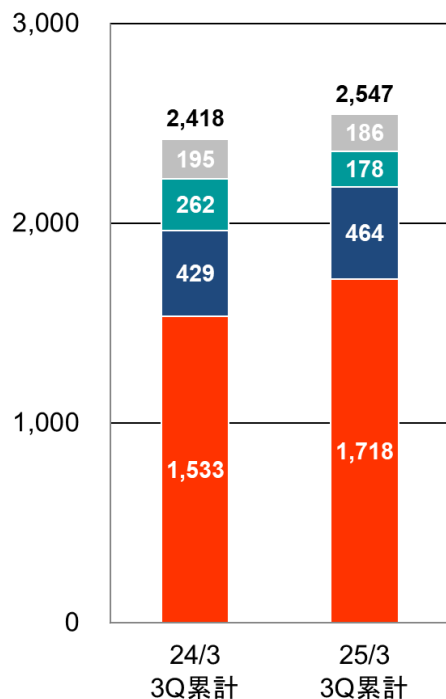


第3四半期累計 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2024年3月期 第3四半期累計		2025年3月期 第3四半期累計		増減	
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	増減額	増減率
コンデンサ	153,274	63.4%	171,788	67.4%	18,513	12.1%
インダクタ	42,920	17.7%	46,446	18.2%	3,525	8.2%
複合デバイス	26,150	10.8%	17,849	7.0%	△8,301	△31.7%
その他	19,467	8.1%	18,640	7.3%	△826	△4.2%
合計	241,813	100.0%	254,724	100.0%	12,911	5.3%

第3四半期累計 製品別売上高(前年同期比)

(億円)



■ **コンデンサ** (前年同期比+12.1%)

主にSSDなどの情報機器、自動車、サーバーなどの情報インフラ・産業機器向けが増加。

■ **インダクタ** (前年同期比+8.2%)

主にワイヤレスイヤホンなどの民生機器、メモリモジュールなどの情報機器向けが増加。

■ **複合デバイス** (前年同期比△31.7%)

通信用デバイス(FBAR/SAW)、回路モジュールが減少。

■ **その他** (前年同期比△4.2%)

アルミニウム電解コンデンサが減少。

■ コンデンサ ■ インダクタ ■ 複合デバイス ■ その他

連結財政状態

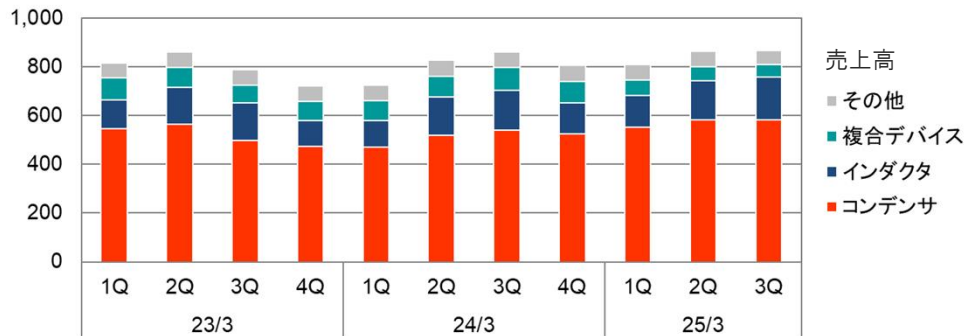
百万円	2024年3月末	2024年12月末	増減
現金及び預金	102,783	82,495	△20,287
資産合計	579,686	595,582	15,896
有利子負債	148,845	164,448	15,602
負債合計	249,587	260,271	10,684
純資産合計	330,098	335,310	5,211
自己資本比率	56.8%	56.2%	—
ネットキャッシュ	△46,062	△81,952	△35,890
D/Eレシオ	0.45	0.49	—

連結業績推移(四半期)

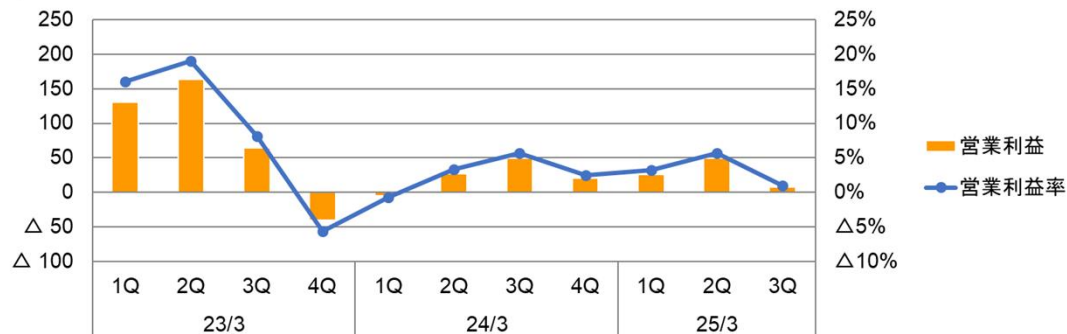
百万円	2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	81,740	86,272	79,032	72,458	72,612	82,814	86,386	80,834	81,138	86,718	86,868
コンデンサ	54,583	56,438	49,867	47,225	47,133	51,950	54,190	52,554	55,192	58,278	58,317
インダクタ	11,748	15,156	15,212	10,748	10,976	15,748	16,196	12,645	13,011	15,963	17,471
複合デバイス	9,159	8,276	7,358	7,786	8,182	8,326	9,641	8,784	6,388	6,097	5,363
その他	6,248	6,400	6,594	6,697	6,320	6,789	6,358	6,849	6,546	6,379	5,714
営業利益	13,142	16,475	6,462	△4,100	△577	2,721	4,900	2,036	2,630	4,945	825
経常利益	17,204	18,355	2,572	△3,299	1,159	5,127	1,169	6,301	8,377	△1,617	6,925
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	12,236	12,643	1,972	△3,636	903	2,497	276	4,641	6,309	△2,741	4,598
対米ドル 期中平均レート	124.45 円	135.33 円	144.27 円	132.75 円	134.93 円	142.47 円	149.10 円	146.76 円	153.15 円	154.14 円	149.04 円

連結業績推移(四半期)

(億円)



(億円)



当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN